

R18

慰安任務

大名の息子



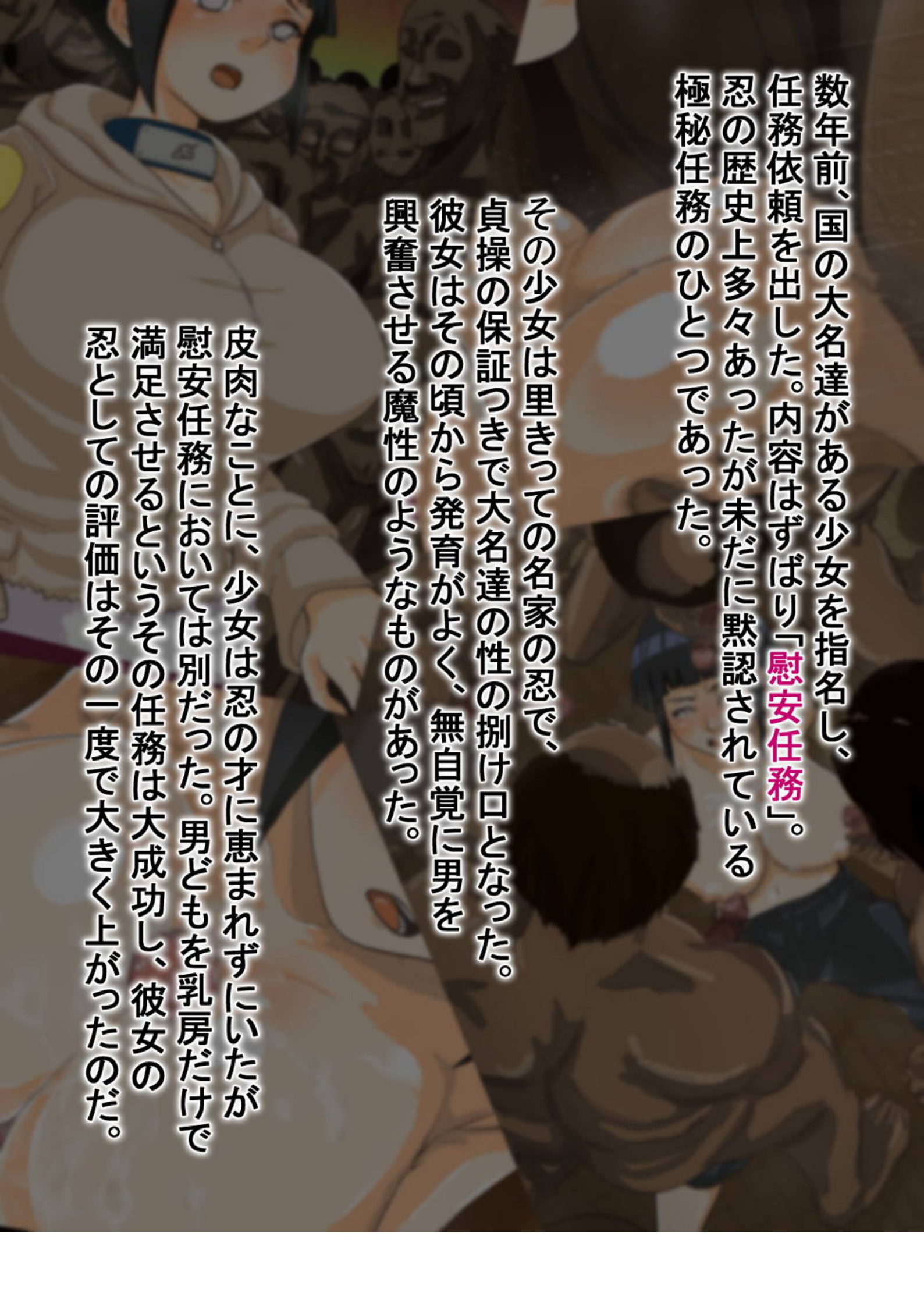
※本番無し

魚齒満

「忍」、それは単に軍事力だけでなく、その特異な力による産業、工業、医療、里や国から出されるあらゆる任務……人々の生活にとって欠かせない存在である。

任務は、それぞれの忍に適した難易度、条件のものが与えられる。班ごとに動く事が普通だが、稀に特定の個人にも依頼される。

その場合は、大抵その者にしか達成できないもの、つまりその人物の知名度、名声に頼るものであり、忍世界において大変名誉なことである……。



数年前、国の大名達がある少女を指名し、
任務依頼を出した。内容は**「慰安任務」**。
忍の歴史上多々あったが未だに黙認されている
極秘任務のひとつであった。

その少女は里きつての名家の忍で、
貞操の保証つきで大名達の性の捌け口となった。
彼女はその頃から発育がよく、無自覚に男を
興奮させる魔性のようなものがあった。

皮肉なことに、少女は忍の才に恵まれずにいたが
慰安任務においては別だった。男どもを乳房だけで
満足させるといってその任務は大成功し、彼女の
忍としての評価はその一度で大きく上がったのだ。

その少女は、誰もが見惚れるような成長をした。
美しい髪を伸ばし、体つきはさらに艶めかしく……。
里を出て修行をしている想い人に近づけるよう、
日々訓練、任務に勤しむ彼女はもう立派な忍だった。

里の者も、家の者も、誰も彼女に才能が無いとは
言わなかった。しかしヒナタ自身はまだ先を見ていた。
「もっとみんなに認められないと……」そう思っていた。



そんなある日のこと、また彼女に
あの「慰安任務」の話がやってきた。



これまで来ていた慰安任務の依頼は里の担当役が断ってくれていた。主に通常任務に向いていない忍に与えられるもので、成長したヒナタは様々な任務をこなしていたからだ。

だが今回は依頼の内容が特殊なため里が彼女に判断を委ねることにした。大名からの物であるのはいつもと同じだが、慰安の対象がその子息なのだ。大名は世襲制だ。将来国の柱となる息子に「ある教育」をしてほしいと記されていた。


へら...



「こんなもの……うう……うう……
でも相手は一人だけ、か……
本番もなし……。わ、私はもっと
頑張らないと彼に追いつけないし
これも任務だと思えば……」

「ある教育」とは、性教育という
ことだった。大名の息子は、いい歳して
二次元の女の子にしか興味がないのだという。
世襲制社会の長男としては致命的であろう。
だが、国は里より娯楽が発達しており、
そういう性癖の男性も少なくはないのだ。






ようするに、彼女の身体の凄さを
知っている大名の一人が、息子の
ために現実の女の良さを教えて
やってくれ、という依頼だった。

その男はもう年齢三十を
とつくに越えた哀れな童貞。
父親がいくら言ってもお見合いも
拒否し、家で自慰行為にふけている。

二次元以外の女なんて興味ない。
そんな息子でも、ヒナタになら
興奮して、考えを改めるのでは、と
なかなか切実な依頼だったのだ。



恥ずかしさにさえ耐えれば、
たった一度で大きな評価を貰える……
それに……前より発育した自分の身体を
意識すると、楽な任務のように思えた。
前回の女狂いたちと違い、相手は童貞の
情けない男なのだ。

少なからず、想い人が帰ってきたら
そういう関係になりたいヒナタには
「Hの練習にもなりそう」
というやましい理由もあったが……

本人なりにあれこれ考えて、
結局彼女は今回の慰安任務を
受けることに決めたのだった……。


むちゅ♡

よし、行ける。。。前みたいに
強制的な任務じゃないし、
自分のペースで早く済ませれば
全然大丈夫なはず。。。!

それに、今回はただ単純な
えつちな任務じゃないから。。。
私にその人を助けられるなら、
忍として放っておけないもの。

ズルッ






今の自分への自信と、
忍としての使命感が
彼女の足を動かした。
巻物に書かれてある
国の歓楽街へ向かうヒナタ
であった。

歩を進めるたびに
揺れる胸。彼女が厚手の服に
隠すそれは、心の内に秘めた
性欲を暗示させるようだった。

びるんっ

びるんっ



慣れない歓楽街を、怖々進むヒナタ。里では見ない異様な雰囲気な建物が目的の地だった。キヨロキヨロと目を泳がせ入ったそこは、いわゆるラブホテル。男女がセックスするための施設だ。

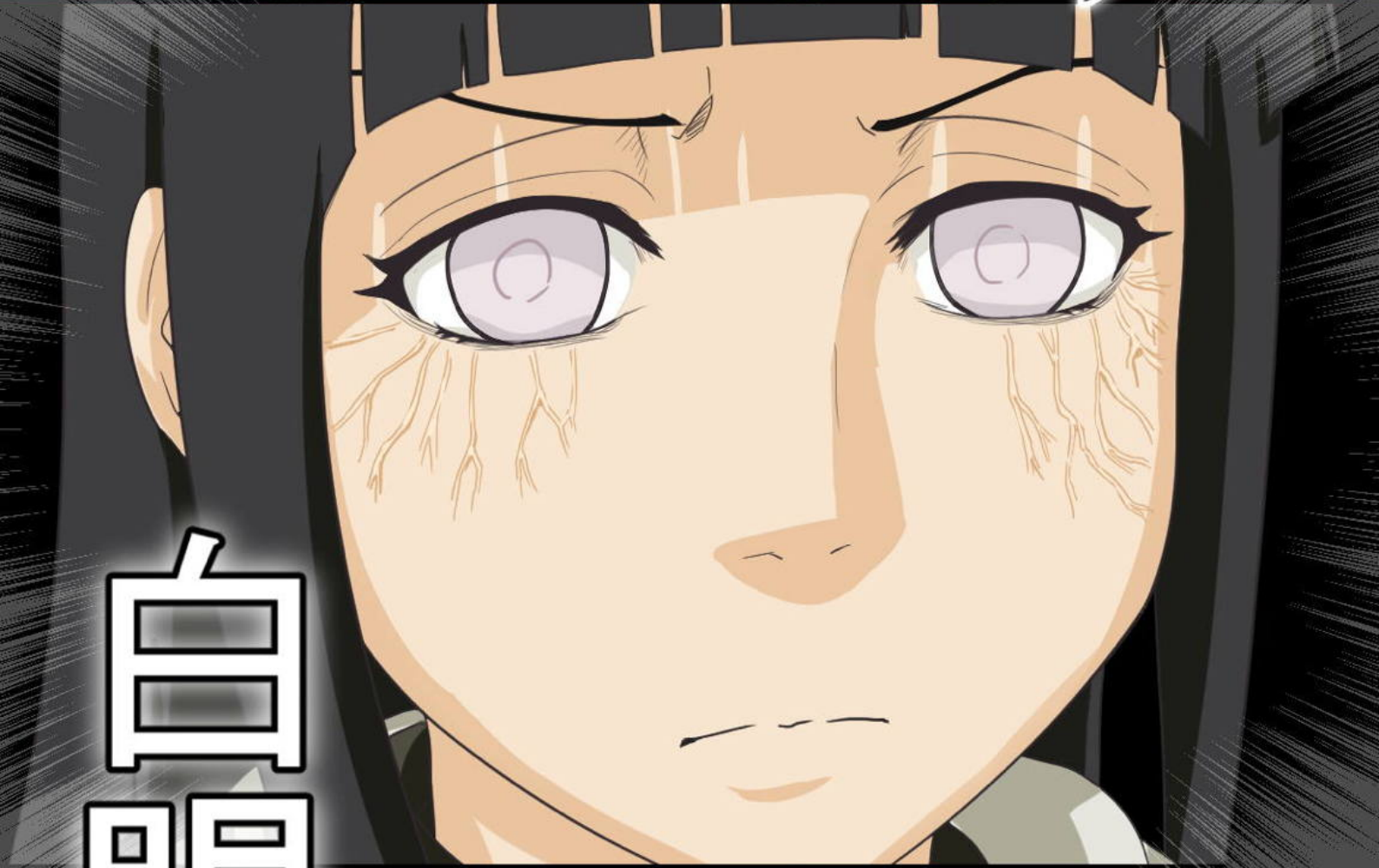
むしろ彼女自身の男好きする容姿はこの場所に相応しいとも言えるが、いまだ貞操を守っている少女には刺激が強く、目眩がした。

自分がセックスをしに来たわけではないのに、身体が緊張し、息が荒くなった。指定の部屋に入るまで通った廊下には、使用中の部屋もあった。つまり今、誰かがそこでセックスしてるということ……。それをどうしても意識してしまうヒナタだった。

こ、この部屋だよね……。
なんでこんな派手な色なのかな、
頭がくらくらするよ……。

そろりと部屋に入り、辺りを確認する。
かなり広いらしく、色々設備は整っているようだ。
忍の癖で、素早く観察するが特別怪しいものは無い。
とはいえ、ヒナタはここについて知らない事も多い。

彼女は、あらゆる物を透過する
「白眼」という術で、もう少し
詳しく中を見てみることにした。



白眼！

えっと、あそこがトイレ……
あ、お風呂と一緒の部屋なんだ……
すごく広い浴室なんだね……
結構キレイにしてあるみたい。

なんたる、カラオケ？
他にも色々遊ぶものがあるみたい。別にエッチなものばかりじゃないんだ……。

でも、やっぱり壁とか窓？
色がすごくキツイ……。
赤色は人を興奮させるって聞いたことあるけど、それでこんな感じなのかな？

うん……よし、この辺はこれで全部かな……
怪しいものは隠れてないみたいで安心した。
後は依頼人の息子さんがいるはずの大部屋を……

オ
イ
イ
イ
イ……

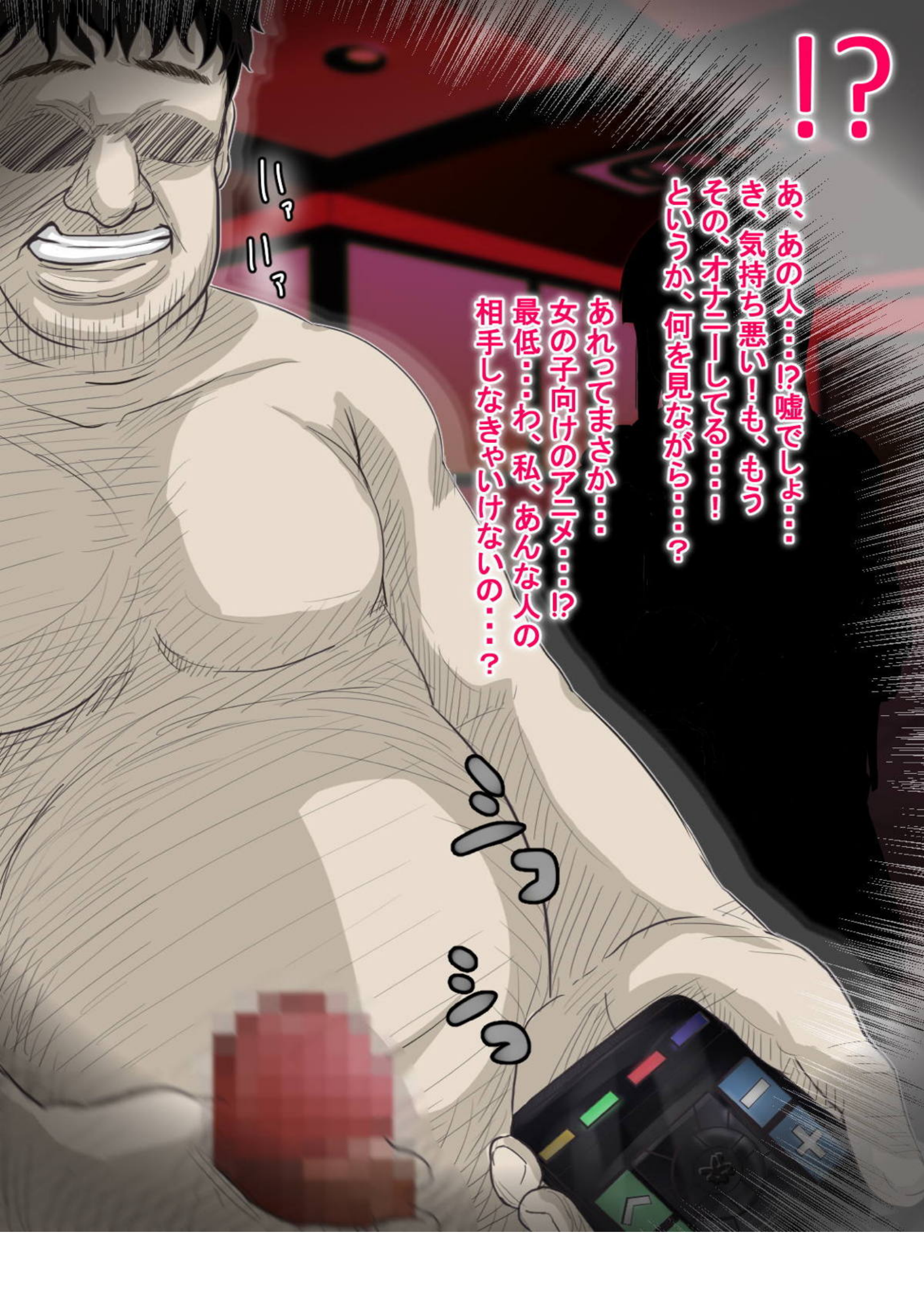
!?

あ、あの人……!?嘘でしょ……
き、気持ち悪い!も、もう
その、オナニーしてる……!!
というか、何を見ながら……?

あれってまさか……
女の子向けのアニメ……!?
最低……わ、私、あんな人の
相手しなきゃいけないの……?

ハア
ハア

ハア
ハア



か、帰りたい……!!
覚悟してきたけど、
流石に気持ち悪すぎるよ……
でも、任務を放棄するなんて
したら……うう……っ

あまりの光景に絶望するヒナタ。
今から性的な接触をしなければ
ならない男が、脂ぎった汚い手で
女兒向けアニメに息を荒げて興奮し、
自慰行為にふけている……。

しかし、後悔先に立たず……
中年の童貞男ということとで、
多少の予測はしていたが、
想像を超えた気持ち悪さに
果たして耐えられるのかと
自問するしかなかった……。

ゆ、勇氣出さなきゃ……
もう一度覚悟を決めなおして、
任務、これは任務……よ、よし……!!

あ、あのお……! 任務依頼で
来た者ですけど……ええつと、
お、お邪魔しても大丈夫ですか?

ゴ
ゃっ……

なんとか勇氣を
振り絞って声を
かけるが、男から
返事がない……。

女兒向けアニメオナニーに夢中で
こちらに気がついていないのか……？
ヒナタも女のプライドを傷つけられた
ように感じ少しムツとしてしまった。

自分から向かうのは癪だったが、
任務だと割り切り、果たさなければ
ならない。相手が誰であろうと……

つづるん

不満げながら男に近づくとヒナタ。
自慰行為の最中の盛った男の元へ……
羞恥心はあったが、それよりも
反骨心が強く出た……。

大きな胸を揺らしながら歩く……。
街中では視線を感じないことはない。
そんな彼女が、任務といえども
「いやらしい事をする」という覚悟を
もって「こ」まで来たのに、当の男の
態度はそれを拒むかのよう……。

だからこそその依頼だった。
この男に女性の魅力を、
身体を張って教える。
いかがわしいことだが、
確かに認識を改めさせる
必要がある、と彼女も
感じていた。

つづるん

あの、任務で来た日向ヒナタ
ですけど……その、お父上から
聞かされてるとは思いますが……

きよ、今日はよろしく
おねがいます……。

ん、ああ、はいはい、任務の人ね。
まあ一応ボクも約束通りここに
来てはいるけれど、別に何も
しないでもいいよ、見てのとおり
オナニー出来たら満足だし……。

い、いえ……そういう
訳にはいかない……



な、なんなのこの人……
「任務」だって言ってるのに
このまま何もしないでいいって
……依頼内容聞いてないの？

私だって本当は何もしないで
帰りたいよ……でも、成果を
出さなくちゃ依頼主の大名、
この人の父親に納得してもらえない。

それじゃ任務失敗だよ……
だから頑張ろうと思ってるのに、
自分のことしか考えてない……
きつとそうやってこの歳まで
来てしまったんだね……。



あー、何？なんか困る感じ？
ま、そうだな〜パパが言うには
美人なんでしょ？んで巨乳？
風呂場にさ、なんか水着とか
あるらしいから着てきてよ。

ひひっ

……水着？

まあ、出来によっては
相手してやるかも
しれないよ(笑)
ピニキュアももうすぐで
見終わるしさ〜、
まあ暇つぶしっ？ひひっ

暇つぶしっ……



男のあまりの失礼さ、
人を馬鹿にしたような態度に
言葉も出ないヒナタ……。

だが確かに、前に相手をした
大名たちも偉そうで自分勝手
だった。この男もいずれ大名に
なるのだ。不思議なことでは
ないのかもしれない……。

任務以前に根本的な問題を
男から見取ったヒナタだったが、
なんとかこの人だけでも少しマシな
人間にしなければ、と元来のやさしさで
任務を続行することにした。

分かりました、着替えてきます……
お風呂場にある水着ですよね？

うん、まあコスプレみたいなの？
ちゃんと見てないけど。
ゆっくりでいいよ別に。
他にもアニメあるし(笑)

ひひっ

……じゃあ着替えてきます。
そんなに時間かけないように
しますから、アニメそれで
止めといてください……。

ふーん、まあいいけど
大した自信だね？
なら待っててやるよ、ははっ



柔らかなヒナタにしては珍しく怒っていた。男をキツと睨み、風呂場へ向かう足取りも、無遠慮なものになっていた。

ある意味これは戦闘任務のようだと、彼女は認識していた……。男を精神的に負かさないと任務は失敗したも同然。

ん？

ならば負けるわけにはいかない！
こちらの武器は自分の豊満な肉体だ。
普段恥ずかしがり屋な彼女がそこまで思うのだ。やはり天性の才能というものがあるのだろう。「慰安任務」の……。



風呂場に入って見回すと、
確かに水着が置かれていた。
それは清楚な彼女には想像も
つかない形状をしており、
ヒナタは驚きながら手に取った。

こ、これに着替えるの……？
私が……？嘘でしょ、でも……
もう後に引けないよね……
任務……任務のためよ……

破廉恥極まりないその水着。サイズは
ギリギリだった。それもそのはず、
彼女ほど豊満な肢体に合わせた
衣類は少ないのだ。彼女が普段着を
選ぶ際にも悩むことだった。

うう、はみ出ちゃうよこれ……
んっ……きつい、全然隠れてないよ
もうやだ、恥ずかしいよお……

なんとか着れた……けど
こ、これ……エッチすぎない……？
いや、エッチっていうか……わ、私……

鏡で自分の姿を確認するヒナタ……。
あまりの淫靡さに、固まってしまった。
ヒナタもある程度は自覚しているが、
普段ではありえない水着姿に、それを
再認識せざるを得なかった。

水着のそばには、コスプレ用の
猫耳つきカチューシャが置いてあった。
セットで身に着けるものなのだろう。
毒を食らわば皿まで。胸の鼓動が早く
なるのを誤魔化すよう、それも身に着けた。

い、いやらしくても……今回の任務には
有効だよね……そう、あんまり考えちゃダメ。
別にドキドキしてない、焦ってるだけだもの……
……早くすませよう……。

よ、よし。行こう……

一応待ってもらってるわけだし、うじうじしてても一緒よ……

意を決して風呂場の外へ向かうヒナタ……。しかし、少し動いただけで水着が敏感な部分をこすった。

!?

んう……っ!?

はっ……ん……動いたらこ、これ、胸……乳首が擦れるよ……んん……っ

大きすぎる胸が揺れると、サイズギリギリの水着が刺激を与える。なんとか外へ行こうとするが、体の火照りは強くなる一方だった。

はあ、はっん……ふう……
ダメ……しつかりしなきや
はあ……はあ……っ
わ、私はこんな……んっ

ズルッ


ほんの少しの動きで
性的な快感を感じてしまう
自分の浅ましい身体に
焦るヒナタ。

このままではあの男の前で
恥をかくことになる……
彼をリードしなくては
ならない状況で、自分が
感じてしまっはいけない。

ズルッ

それでも胸は揺れるし、
水着も擦れ食い込む。
ヒナタはこの快楽に
耐えられるよう身体を
慣らそうと、もう少し
部屋から出ないことに
した……。

キムビ



しばらくして風呂場から
出ると、ヒナタの呼吸もだいぶ
落ち着いていた。火照りはあるが、
刺激にも慣れてきたようだ。

戻ると、男はベッドに寝転んでいた。
しかし鼻をつくのは精液の強い臭い。
あの後射精したのだから……。
女兒向けアニメのどこに股間をしごく
要素があるのか、ヒナタは嫌悪感を
覚えずにはいれらなかった。

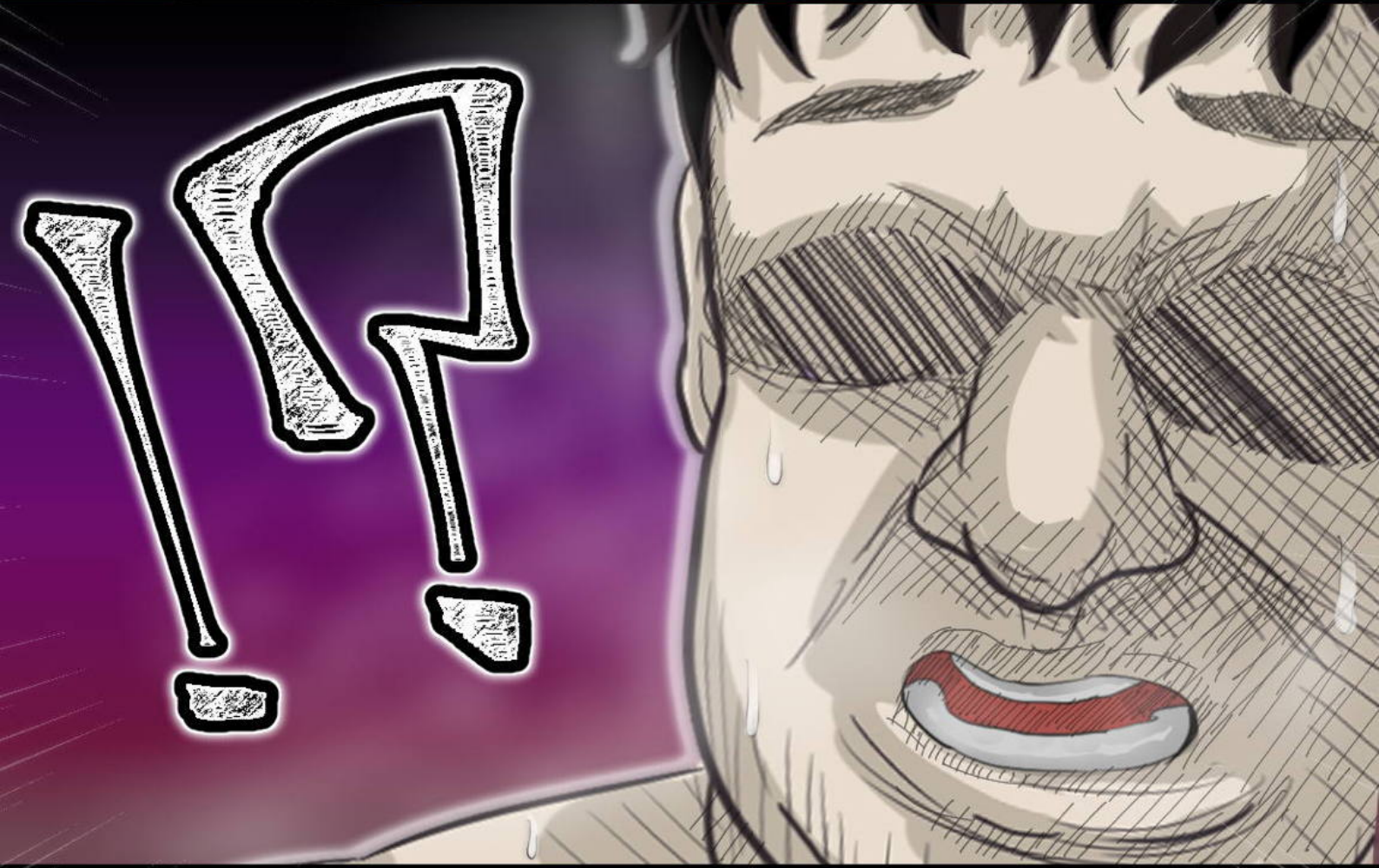
……そうは言ってもこの男の
相手をする準備が整ったわけで、
ヒナタはベッドで背を向けている
その中年童貞に声をかけるのだった。

あの、戻りました…
少し着替えに時間を取られて
遅くなってごめんなさい。

あー、はい、おかえり。
賢者モードだわ。一発抜いてさ
で、なに？水着ちゃんとおった？

…はい。その、着替えたので
えっと、任務を進めたいんですけど…

そうは言っても今射精した
ところだしなあ、そもそも
現実の女に何されても…



衝撃だった。男は
この時に初めて
ヒナタを見たのだ。

ムキ♡

「大きい！エロアニメの
キャラクターがそのまま
出てきたようだ！」

男の目には、まず
その大きな胸が
飛び込んできた。
現実にも巨乳の
女性は存在するが、
彼女は別格だった。

ムキ♡

父の大名も息子に
散々聞かせていたが、
実際に見ると想像を
遥かに越えていた。
いやらしいだけでなく、
美しさすら感じた。

続いて驚いたのは
その顔立ちだった。
まだ幼さを残した
女の子だ……。
声が出なかった。

「か、かわいい……
しかもまだまだ
子供じゃないか！」

当のヒナタは熱心に
見てくる男の視線に
困惑していたが、男は
完全に目を奪われて
いた。

確かに以前、父が
彼女に会った頃は
忍になって間もない
美少女だったと言っていた。

信じていなかったのだ。
どうせ巨乳といっても
太ってるだけで、父の
いう美少女というものも
テキトーだと思っていた。
だが目の前には聞いた
通りの……それ以上の
娘がいた。



えっと、な、何……？
じ、ジロジロ見て
どうしたんですか……？

い、いやあ、思ったより
その……悪くないね！
はは、パパの言うことも
たまには正しいんだな

……気に入ったんですか？
この格好……じゃあ、あの
任務のほうに早速……

へへッ

いや、待ってよ、僕もっと
君の身体観察したいな
ていうか僕を興奮させる
みたいな任務だよな？
じゃあ言うこと聞いて
もらわないとなへへっ

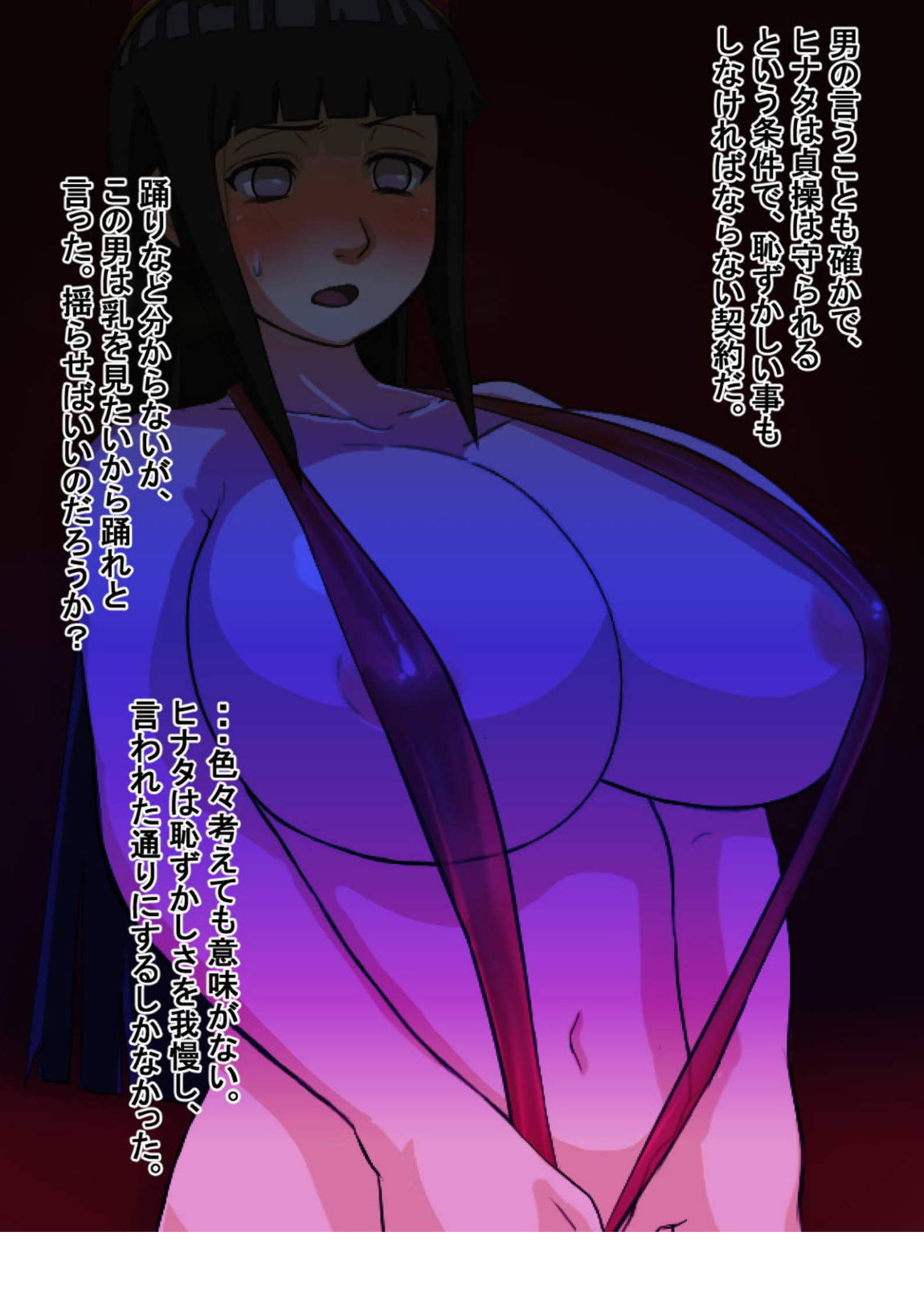
。。。それは。。。うう。。。
そうかもしれないけど。。。

あのさ、じゃあほら
踊ってよ！おっぱいが
もっと見たいな
めちやくちや大きいね
興味あるなあ〜(笑)

わ……

そんなの、踊りとか
したことないから
できないよ。。。。。。

え、なに？僕に
女の魅力教えるんじや
ないの？できるでしょ？



男の言うことも確かで、
ヒナタは貞操は守られる
という条件で、恥ずかしい事も
しなければならぬ契約だ。

踊りなど分からないが、
この男は乳を見たいから踊れと
言った。揺らせばいいのだろうか？

。。。色々考えても意味がない。
ヒナタは恥ずかしさを我慢し、
言われた通りにするしかなかった。

腕を頭上にあげ、身体を左右に捻る単純な動き。それだけでも、ヒナタの胸はぶるぶると揺れる。

ぶるぶる、ぶるぶる

ブル

フッ

アッ

う、うわ……すげっ
マジですか……え、エロっ……
ははっエロすぎ……(笑)

ぶるぶる……ぶるぶる……

ブル

こんな子だめでしょ
やっべ、やべえな……
エッロ……乳でけっ

すっぴいねえい……
もっど、もっど振ってよ乳！
そのでっかい乳振れよスケベ！

す、スケベは
あなたでしよう

ブルン

ブルン

ぶっぶっ……ぶっぶっ……

そんなこと言いながら
ちやんと振りまくってん
じゃん！すげーっ！
パパに感謝かもな
僕正直興奮してるもん

↑

↑

い、いつまで
やればいいんですかっ
疲れてきました……

男の興奮を煽るのには
成功したものの、ヒナタは
羞恥心と疲れが出てきて
しまっていた。

ああ、そうだね、ごめん
僕としたことがつい夢中に
なっちゃったよ……
こんなエロい娘が現実
にいたなんてびっくりでさ
ひひっ……参ったねほんと！

そ、それはっよかった
ですねっ……はあ、はあ……
一回、止めて、いいですか……？

男の許しで、ヒナタはその乳振りダンスを終えた。火照った体がまた扇情的で、無自覚に男の興奮をさらに煽る。


はあ、はあ、疲れた……
つ、次は、えつと……

律儀に次の支持を待つヒナタ。自分の破廉恥な恰好、彼女でも自覚するエロい踊り。この状況が産む独特な空気に当てられ、感覚がマヒしていた。

そうだな、確かにエロい身体の美少女が現実にいるってのは認めてあげるよ。だからさ、エロアニメ見ようよ！君と見たらやる気になっちゃうかもよ。

え、エロアニメ？
あの、やる気が出てても私はその本番……ダメですよ……？

はいはい。



男に言われるまま、
エロアニメを見ることにな
ったヒナタ……。
変態じみた格好をして
ベッドで男と並び座る。

にやにやしなが
ら
身体を寄せてくる男に
身をよじるが、離れよう
とはしない……。

律儀な彼女は、アニメを
見るのも任務の過程の一つと
割り切ることにしたのだ。
しかし、隣で股間をしごく男に
怖気が走るのを防ぐ方法はなかった。

…まだアニメ始まってないのに
なんでその、お、オナニーを？

アニメをつけるまでの
ドギマギした時間に
耐えられず、恥ずかしい
質問をしてしまうヒナタ。

いや、準備運動っていうか？
今から興奮高めて、一気に
みたいなさ、キミも横にいるし
いい感じだよ、はははっ

うう、でもエッチなアニメで
オナニーしたら任務的に…
み、見るだけにしてくれませんか？

しっ

しっ

まあまあ、ほら、始まるよ！
射精するかどうかは置いて
僕と一緒に見ようねっ

…はい。

険しい顔で画面に向き合うヒナタ。
男の提案には頷いたものの、これは
あくまで任務……。どうすれば
男にこういうアニメだけじゃなく
現実の女性に関心を向けられるのか？

楽しみだなあ、これ
ずっと新作待ってたやつ
だからさあへっへっ

…す

…す

…す

催眠だかなんだかで、
女の子が堕とされる展開に
辟易しながら見るヒナタ。

催眠もの好きなんだよ
チヨロいよね、女ってさ

……え？

冗談なのかほんとなのか、
アニメに没入している男に
ドン引きする彼女。
それでも画面から目を
離さないのは、少し見入って
しまっているからだだった。

……

この人上手い上に
抜けるんだよなあ
作画いいねえ

じよ、上手
ですね……

……

……

……わっ

おっ(笑)きたきた
本番きたっ！

アニメも佳境に来て、
可憐な女の子が汚い男に
犯されそうになっている。
男は興奮しきっていた。

……確かにすごいけど
そ、そんなに興奮する……？

いやいや、これからだから
本番前は興奮するもんだよ。
僕はエロアニメいっぱい見るからね

……

……

……

ほら、エロシーンだよ
あーあ気持ちよく
なっちゃったよ、
アヘアへでエロいな

う、うわっ
あ、あんな
顔して…
すごい…

男の言う通り、激しい
本番セックスが始まった。
アニメとは見え見てる側は
ドキっとしてしまう物だ。

すごい恰好なのに、
幸せな顔して…
あんなに嫌がってたのに…

催眠ものの醍醐味だね！
抵抗してる女の子が
チンポに即敗北！みたいな

ち、ちん…

ああ……
そんなに……

え……

画面の中で乱れまくる
アニメの女の子とキモ男の
激しいセックスに顔を覆って
しまうヒナタ。

大丈夫だって
ほら、ちゃんと見て
あげなきゃ(笑)

だ、だって……

どさくさに紛れて
ヒナタの肩に手を
乗せる男。一応、
意識はしている
ようだ。

ね、ほら、アニメのセックスも
すごいでしょ？こんな現実じゃ
できないわけだからさ

うっ……

し……し……
し……し……

見てられ
ないよお……

恥ずかしさに、目を
瞑るヒナタだが、
女の子のかわいい
喘ぎ声は消えない。

おお、いい、
いいね〜！
はあっはあっ

きもちいっ！
ごめんなさいい！
負けました！
ちんぽすごいいい！

ああッ！だめッ
イグッイグイグ！
イクツイッちゃう！

画面の二人は、
セックスのラスト
スパートに入った。
音も激しくなり、
ヒナタの横で男も
オナニーを加速させる。

おお、どうしよ
このままだと射精
しちゃうな〜

アニメで射精しそうになつている男がヒナタに問いかける。

ねえ、このままイっていいわけ？ははっ何？
アニメに夢中みたいなの？

ハッ！だ、だめ
ですよ、あの、
げ、現実の女性……
えっと、任務だから……

初めて観たエロアニメのせいで混乱しているヒナタ。任務として、射精させるなら彼女自身がその対象でなくてはならない。男が詰め寄る。

ねえ、じゃあさっ
そのデカ乳で遊ばせてよ隣でくっついてたら一々
ぶるぶるして、気が散る
つたらなかったよ、ね？

う、それは、きよ、興味が出たって
ことだもんね……わ、分かりました
任務の範囲内なら……はい

両手を構え、ヒナタににじり寄る男。そのニタニタした笑い顔が気持ち悪い……。

ヒイツ……
な、何を……

へへっ好きに遊ばせてくれようデツカいな(笑)
初めてだわ、おっぱい揉むの。いや、ママのは揉んだのか、はははっ!

え、も、揉むんですか……?
あの、えっと……

そんな大きいのですと
見せびらかして、揉むしかないっしょ(笑)
任務任務(笑)



うう、そうですね……
あまりその、すぐえっと
や、やさしくというか……

楽しみだなぁほんと
まさかボクが現実の女に
興奮しておっぱい揉みまわろう
としちゃうなんてなぁ

え、揉みまわると……って
あの、聞いてます……？

はあはあ……どんな感触だろっ
肉まんとかいうけど、そんなの
関係ないくらい大きいもんな

全然聞いてない……!!



覚悟を決め、
男の手がいつ自分を
触ってくるのかと
こわばるヒナタ。

アアア

男は男で、これから
触れるヒナタの胸に
釘付けで、息が荒い。
双方ともに緊張感が
生じていた……。





あつー！

おおっ！これは!?
うわっすげえっ！

すごい勢いで乳房に
飛びつく童貞男……。
いきなりの衝撃の中に、
二人は別の驚きを覚えた。

あつー！

乱暴に乳を揉み始める男、その様子にはかなりの興奮が見えた。

はあっすいっい……
なんだこれ……はあ
はあ……こんなの
反則だよ……ああ……

うあ、は、激しいよ……
ぞ、そんなに……

任務としては好調、
と言っても良い食いつき様だが、
喜ぶわけはなかった。
こんな気持ちの悪いおっさんに
胸を揉みしだかれているのだ。

ああっ！
すいっい……
すいっい……

あっ、はっ……
うっく……んっ……
も、揉みすぎだよ……

最初は興奮で激しい
だけだった男の愛撫が、
ぎゅっぎゅっとな押し込み
ゆっくり味わうような
動きになると、ヒナタは
どうしても声が出てしまう。

んっ……あっ……はっ……

んっ
はっ

んっ
んっ

すげえ揉みこごち良い……
なんたる……落ち着く……
チンポはピンピンだけど
落ち着くよお……

長い間、一人で家にこもって
暮らしてきた童貞男……
ヒナタが感じてしまっている
のにも気づかず、彼女の胸に
心が安らいでゆく……。



はあ、ああ、したい
この乳でチンポ
気持ちよくしたい……

……は、はい？

だからさ、ズらせてよ
パイズリ得意なんでしょ
僕としたことが、キミの
おっぱいに包まれたいんだ
3次元女なのに……すごいよ

……うう、そんな、
と、得意っていうか……
でも、いいですよ、
それも任務だから……。

父からヒナタのパイズリの
話を聞いた時には、そんな事
したくないと話していた男が、
プライドを捨てて頼んでいる。
ヒナタも任務をさらに進める
ため、嫌々了承したのであった。



興奮した男の言うとおりに、
ヒナタは彼の股間へと近づいた。
しかし中年童貞の彼には
パイズリされた経験などない。

処女ながら、パイズリの
経験を持つヒナタは、彼を
リードしてあげなくては
ならないと思っていた。

だがそれもたった一夜の経験。
テクニク自体は、娼婦と
比べても大したものだったが、
色々な「おかず」に親しんだ
知識だけは豊富な男にそれが
通用するのだろうか。

ともあれ、はじめはヒナタを
ちらりとも見ずにいた男を
考えると大きな変化だ。
ヒナタの魔性の賜物だった。

じゃ、じゃあしてもらおうかな
パイズリね、パイズリ。

う、分ったから
あんまり言わないで……

うん……

えっと僕はどうしたら
いいのかな、チンポ出す？
チンポ出さないよね、うん

……はい、脱いで
ください……

プル

プル



男性器が勢いよくヒナタの眼前に露出される。先ほどからチラリと眺めていたヒナタだったが、実際に見るとかなりのサイズだった。

お、大きい……

あっ、やっぱり大きいんだね
僕のチンポって……ていうか
大きいかどうか分かるなんて
流石スケベ女だね〜(笑)

スケベじゃないよ
ただ、大きいって
言っただけで……

ぽろんっ

で、次どうすればいいの？
もう挟んでもらえるわけ？
「こう、エロアニメだと、よだれで
おっぱいヌルヌルにしてからさ」

その、よだれは
下品なので……えっと
さっきお風呂場にあった
この、ヌルヌルの液で……

男にローションの容器を
渡すヒナタ。水着の近くに
置いてあったもので、想定して
持ってきておいたのだった。

うわ、ローションじゃん！
マジかよパイズリする気
まんまんだったってこと！
エッロ……キミやばいわ……

抗議しようとするヒナタを
無視して、胸にトロリとした
液体をかけてゆく男。
火照った身体には冷たかった。

んっ……うっ……
っ、冷たいです……
これ、んっ……!!
うっ、ぬるぬる……

おお、エロいエロい!!
ローションなんてオナホ用に
しか使ったことないよ!!
爆乳にかけるのエロいなあ!!

とろり
とろり

いいね、塗り込んでよ
そうそう、うわ、パイズリ
しやすくなったね(笑)

ドロー...

男の言うことを聞き、
胸中にローションを
塗り広げてゆくヒナタ。
卑猥さは増すばかりだ。

これでいいかな...よしっ
その、えっと、そろそろ...あの
挿入してもいいと思いますけど

パイズリ準備完了ってこと？
そんな挿入してほしいなら
仕方ないなあ〜よいしょ……うおう
あっあっ、なんだこれ、僕のチンポが……

ヒナタの肉厚の乳を
男の肉棒が進んでゆく。
ぬるぬるな上にキツイ
締め付けに、男は腰が
抜けそうになる……

は、挿入ってきてる……。
大きくて硬い……あっ
そ、そんな深くまで……

お、大きいのはこのエロすぎる
おっぱいの方だよ……ぐう……
全然奥までいかない……おっ……
くうう、す、す……すぎる……

ぐぐぐ

みち

みち

あまりの乳圧、ローションに
よって大きな乳をぬるっと
進んでいく感覚が、男の足を
ガクつかせた……そして

う、うあっ

出るっ！

んっっ!!

とびゅっ

で、出ちゃったよ……ぐおおっ！
くそおっ、い、挿入れる途中で……
うっっっ！ああ止まらないっ
ぐぎい、ま、まだ出るっ……っ！

乳肉の間に挿入する
途中で射精してしまい、
一旦肉棒を抜いてしまう
童貞男。腰が震えていた。

ぐおお……ぬ、抜くときも
イキそうだった……やべえ……
この娘のおっぱいマジでやべえ……

んっくっ、おっぱいの間が……
気持ち悪い、どろどろ……
臭いもすごいよ……うっ……

く、くそお……でも、
僕のチンポはまだまだ
ビンビンだよ！オナニーは
一日中やってるんだ！
よし、次はキミがやってよ
我慢してみせるぞっ！

ぬちげあ……

一度の射精量がとてつもなかった。
しかも、男はさっきオナニーをした
ばかりのはず……精液の量、濃さに
関して言えば、パイズリした男の
中では一番かもしれない……。

生身の女への射精で、動揺は
したようだが、男はまだまだ続ける
つもりらしい。ヒナタのパイズリには
中毒性があったし、ましてや童貞男
は初体験なのだ。男が満足するまで
付き合うしかなかった。

……じゃあ、あの……
私がおっぱい動かしますね、
き、気に入ったみたいだし……

よいしょ……
はあ……ふう……
あの、どうですか……？

おおお……
ほ、僕のチンポがあ……おっ
ああ、幸せだ……気持ちいい……

な、なら続けますね

だらしなく緩んだ表情で
ヒナタのパイズリを受け、
幸福感に浸り、腰が抜ける
ほどの快樂におぼれていく男。

っ
っ

ぐちや
ぐちや

ぐち

ぐち



完全に自分の身体に夢中な男に
容赦なく肉棒を挟み動かすヒナタ。
連続で射精させて満足させようと、
彼女のペースで行う行為は続いた。

ふう……ふう……
どうですかっ、
気持ちいいですか？

あ、ああ、気持ちいいよ
キミの、ヒナタちゃんの
おっぱい気持ちいいよおお……っ



突然、思い切り乳圧を
かけるヒナタ。男の射精が
近づいているのを悟り、
一気にラストスパートを
決めるつもりだった。

ぐあっ!? な、なにを
するんだよヒナタちゃんっ
僕射精しちゃうところだった
じゃないかっ!

。。。だったら早く
射精してください!
我慢しないでいいからっ



あっあっ出ちゃうだろっ
や、やめ……こらちよっど！
ひ、ヒナタちゃんやめっ……



男から目を逸らし、ひたすら
乳圧を強くかけ、ゆるめ、を
繰り返して無理やり射精させる
つもりなのヒナタ。男はもつと長く
楽しみたかったが、限界がきた。



く、くそおっ、こんな、この僕を
思い通りにしようなんて……うぐ、
お、お仕置きしてやらなきゃなっ！



!!

男が近くにあった
電動マッサージ機を、
二つも同時にヒナタの
胸、それも乳首あたりに
押し付け、スイッチを入れた。

ひゅっ!?

も、もうイクのは
止まらないけど、
す、好きにはさせ
ないぞおっつ!

グ
イ
イ
イ
イ
イ
イ
イ

おおお……し、振動が気持ちいい
おっぱいがブルブルして、チンポに
心地よくまとわりついてくる……

あっはっ……な、
なんですかこれえ……
んう、あ、あっ……んっ

ひ、ヒナタちゃんも
気持ちよさそうだねえ
ここかな？おっう、この
あたりが乳首たるっ！

ひいっ、あ、うそ
ああ、わ、私……
来ちゃうっ……

ほ、僕ももうダメだ
射精る射精る……
いく……い、イクうっ！




ふー、ふーっ……
わ、私もいつちやう
なんてえ……ふうーっ……
んひ、ひどいよお……

うっ、まだ射精てるよ……
エロすぎだよ……ヒナタちゃん
電マ攻撃でほんとにイクなんて
思わなかったよ、はあはあ……

自分のペースでしていた
パイズリが、男の最後の
抵抗によって、逆転した。
ヒナタは恥ずかしいほどの
アクメを決めてしまった……





恥ずかしい所を見られて
しよんぼりしていたヒナタに、
男はもう一着あった水着を
着せることにした。

風呂場でそれに着替える
ついでに、精液を落とす。
やはり濃さと臭いの強さ、
量などがとても一人が
出したものとは思えなかった。
引き換えでローションを体に塗る。

男には男性としての機能が十分にある。
そして今、男の性欲が現実のヒナタに
向いている。彼を満足させるまで辛抱す
れば、この任務は成功するだろう。
ヒナタは息を整え、男の下へ戻った。

えっと、戻りました……あの、
水着あったけど、キツキツで……
面積も少ないし……着てないと
ダメですか……？

ぎゅっと胸を押さえ、
男に尋ねるヒナタだが
その弱弱しい質問と
見た目のいやらしさの
ギャップが男の興奮を
煽るだけだという自覚は
なかったようだ。

エッロ……はあ、はあ……
そのままパイズリしてよ、
ハマちゃったみたいでさ
ほら、チンポビンビンだよ

ズ
ー
ゅっ

ほら、ゴンドゴンドのチンポ。
まだ精液溜まってるぞ〜

えっ……!!

男が勃起した性器を
ヒナタに見せびらかす。
さっきの二発……オナニーを
含めると三発出したはず、
それなのに全く萎えていない。
予想はしていたが、それでも
遅しすぎる勃起だった。



男のチンポを凝視してしまったヒナタ。
風呂場でも考えたが、すごいイチモツだ。
自覚がなくても、ヒナタも一人の女……
つい観察してしまうのも無理なかつた。

いまヒナタちゃんすごい
チンポ見てくれてたね、
ますます興奮するよ。
そんなにパイズリしたいの？

ち、違います、別にそんなに
見てないよ……で、でも……えと
始めますね、や、やりたいから
じゃないですよ……？



ズ
ニ
ユ
ウ
〜

うああ、ぐう……
挿入しただけでまた
イキそうになる……っ

ヒナタの乳肉の間をゆっくりと
締め付けられながら進む男性器……
この気持ちよさは、体験した
人間にしかわからないだろう……。
男は幸せそうに、しかし快樂に
歯を食いしばってそれを味わった。

そんなに気持ち
よさそうにして……
うう……

ズ
ニ
ユ
ウ
……

…動かしますよ
ふう、ふう、ふう…

乳を左右、互い違いに
動かしていくヒナタ。
ぎゅっと締め付けたまま
ねっとりした動きで、
肉棒に刺激を与えていく。

はあああ…良い…
こ、腰抜けるくらい
気持ちいいよ…



あの、気持ちいいですか？
す、すごい顔してますけど……

最高だよ……っ、っ、っ
ああ、パパたちずるい
こんなおっぱいを……
僕ももっと前からキミを
知っていたら……ぐっ、っ

でも……今はその、
あなた一人ですよ。
あの時は大勢が相手
だったから……お父様も
その中の一人だった訳で……



だから、えっと……い、今は
その、私を独り占めしてるから
本番はダメだけど……それも
一緒だったし、あの……えっと

……ありがとう
そうだね、確かに
僕だけなんだもんね、
この任務は……うおっ!!

悲しそうな顔を見せた男に、
素のやさしさで諭すヒナタ
だったが、途中でパイズリの
勢いを変え、男は驚いてしまった。

あ、しめんなさいっ



んっ、うっ
す、凄い量……

ああイク、射精るっ
ぐうううーっまだっ
射精る射精るっ！
ぐああおおお、オオ……

ゴッ
ゴッ
ゴッ



めっ滅茶苦茶よかった……
こんな射精、オナニーじゃ無理
だよ……最高だ……今までの時間、
無駄だったんだなあ……

ついに、男は気づいたようだ
生身の女に奉仕してもらって
射精の余韻に浸る……
皆これが大好きで、この為に
男は女を求めるのだ。それが、
今まで自分が避けてきたもの
だったんだ、と。

ほ、本当にすごい量
でしたね……あの……
お疲れ様です。

はあ……はあ……
こ、こちらこそ
お疲れ様だよ……
ありがとうね

どろ
どろ
……



男がヒナタのことを認め、父からの
任務として来てくれたことに感謝し、
一旦落ち着いた二人。

精液やローション、汗などを
落とそうと、ヒナタが風呂場へ
行こうとするのに男が付いていった。
任務が上々に進んでいるので、
不満に思われては敵わない。

しづしづ二人で身体を流した後、
水着姿のままでもいいからと誘われ、
男とヒナタは一緒に風呂につかる。

時間がたち、ヒナタのことを
再度意識しはじめた男が、
浴槽でまた勃起してしまった……。

うわ、また勃ってきちゃったよ
ねえ、ヒナタちゃん勃起しちやっただよ

認識が変わろうとも、中身は同じ……。
二回りは離れている年下のヒナタに、
童貞男はべたべたと甘えはじめた。

ほ、ホントだ……。い、一体
どうなってるんですか……。
あんなに射精しまくってから
大して時間経ってないのに……

だってヒナタちゃんがエロい
身体してるからさ……

び
び

び
び

チャプ

ねえ、しごいてよ
かわいいお手手で僕のチンポ
しごいてくれよヒナタちゃん

ええ……っ、手でですか……？

わ、私できるかな、触ったこと
ないから……

ヒナタちゃん、パイズリ経験
あるくせに、手でチンポ触った
ことないの？なにそれ、エロい！

男の言う通り、胸で挟んだ以外
しつかりと男性器と触れ合った
経験がないヒナタ。おそろおそろ
手をのばし、とりあえず握ってみる。

ズ……

ズ……



こ、このまま手を動かせば
いいのかな……いい、痛かったら
言ってくださいね……？

大丈夫だよお〜ああ良いっ
ソフトタッチな感じ超良いよ〜
ああ、僕の手より全然きもちい……
ヒナタちゃん上手だよお〜っ

じよ、上手……？こんな
感じで良いんだ……
ちよっと触ってるだけ
なんだけど……

ちよっ
ぽ

ちよっ
ぽ
ちよっ
ぽ

ああ良い、ねえ、次は
先っちょ、亀頭いじってよ〜
ぐりぐりされたいな〜

先っちょ……ミニニですか？
ぐりぐりっていうのは
手で包むみたいなきな感じかな

うおお、上手だよお
どんなオナホよりいい……

ヒナタは図々しく色々要求
してくる男にも、健気に接する。
気持ち悪いが、甘えられて満更でもない
様子で、初めての手コキも技量があった。



よ、よだれ出てる……えっと、
そろそろ射精しますか……？

すごい気持ちいいけど、
射精はもうちょいかな……
もっかいシヨシヨしてくれる？

わかりました……
さっきのやつですね？

奉仕を受けながら、偉そうに
している男は、じっとヒナタの
大きな胸を見ていた。自分の
肉棒を触りながら、プルプル
揺れている乳房が興奮を煽る。

ぐにゅ
ぐにゅ

ん



言う通りに肉棒を握った瞬間、
突然ヒナタの乳房が驚づかみされた。

ひああっ!?

へったまらないよ〜これ
うわ、手に吸い付いてくる…
すべすべで柔らかくて弾力も
すごい…っ!

ビクッ

しゅっ
ゴッ
ユッ



乳を揉まれ、ペースを崩されたヒナタは、仕返しとばかりに思い切り男根をしごく。男も負けじと胸を揉みまくる…。

ふう、ふう、んうう！
な、何してるんですか…っ
む、胸揉まないでくださいっ

だってこんなの揉むでしょっ
オッ、手が激しいっこのっ！
このエロ乳がいけないんだっ！

くうん、こ、このちんちんが
悪いんですっ！ま、負けないっ



ぱちゅ
ぱちゅ
ぱちゅ
ぱちゅ

どっぴゅっ

きゃっ、射精した……っ！
か、勝った……！！

い、いきなり亀頭を
攻めるなんてえっ！
射精しちゃったじゃないかあつ



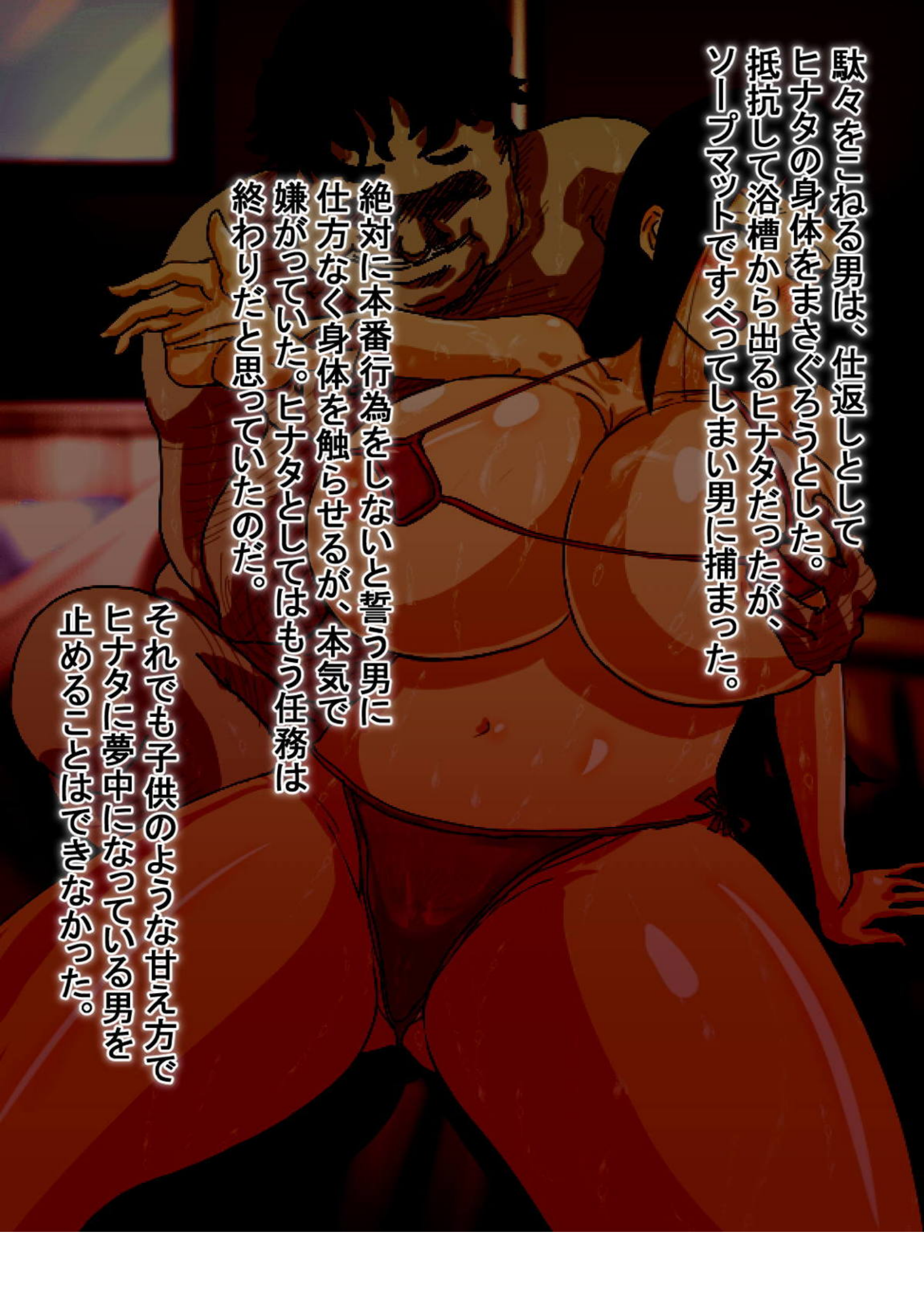
いつの間にか闘いのようになっていた奉仕を、ヒナタが制する。男は腰をガクガクさせ大量に射精したのだ。

ふう……ど、どうですか
満足できましたか？

チンポはね……でも、悔しいよ
僕がいくら童貞でも、こんな
情けなく射精してたんじゃさあ……

そ、そう言われても……





駄々をこねる男は、仕返しとして
ヒナタの身体をまさぐるうとした。
抵抗して浴槽から出るヒナタだったが、
ソープマットですべってしまい男に捕まった。

絶対に本番行為をしないと誓う男に
仕方なく身体を触らせるが、本気で
嫌がっていた。ヒナタとしてはもう任務は
終わりだと思っていたのだ。

それでも子供のような甘え方で
ヒナタに夢中になっている男を
止めることはできなかった。

うひょっすっ！いいポリニューム！
実際にもみもみすると違うね〜
ヒナタちゃんのおっぱいは好きだよ〜

や、やだよおっ
そんな乱暴に
しないで……っ！

嫌がらないでよ〜
かわいいなあ〜ひひっ

完全に調子に乗り、甘える。
ヒナタの人生より長い時間を
一人引きこもって生きていた男が、
初めて興味をもった娘の身体……
彼女の母性、優しさへのぼせ上っていた。

むぎゃ

もみっ

ポリニューム

や、んっんっんっ...

はあ、たまんね〜...
こんなおっきいエロ乳で
パイズってくれたんだねえ

遠慮なく両方の乳房を
揉みしだく男のでっぷりと
した手指に、声が漏れるヒナタ。
もともと敏感な身体で、意思に
関わらずに性感は襲ってくる。

感度いいんだね〜
パイズりしてる時も
感じてたんでしょ？

あ、あれは
マッサージ器が...



ちよつり!

ど、ど、ど触って…ひんっ

ヒナタちゃんの
未使用まんこだよ…
ぽってりしてかわいいよ
濡れてるし…はあはあ

ついには股間にまで手をのばす男。
かわいいかわいと耳元で囁かれ、
嫌なのに感じさせられる…。

はあはあ…エロ娘めえ…っ
ほんとエロゲかエロアニメから
現実に出てきたみたいだな女だ…

うう、い、いやあつ
お、お願いだから
そこは触らないで…っ

ぐいっ
ぐいっ

男は逃げ出しそうになる
ヒナタをもう一度抑え、
落ち着かせる。

「いめんねっふひっ
処女だもんね、おまんこ
触られたくないよねえ……」

ふう、ふう……あの……
ほんとに、ダメだから、ね……

おっぱいだったら
良いんでしょう？
このおっぱいなら
揉み放題だよな？

揉み放題じゃない……
も、もういいでしょ……



ヒナタの息がどんどん
荒くなっていく……。

あ、あんっ、ひらっ
ほ、ほんとにやめっ

僕みたいな童貞の愛撫で
イキそうなの？いやらしっつ
はあはあ……ほらもみもみ
我慢しないでいったらいいじゃん

や、やだやだっ
は、離してっ
やめてよおっ

「ニ」でしょ？
乳首ギリギリのとら
ぐいぐいつてしたら
気持ちいいんでしょう？

うあっやだっ
ああなんでえっ！



が、我慢、我慢しなきゃ
イっちゃう、だめ、恥ずかしいっ
またエロいって言われるっ

ほら、ほらあつ
はあ、はあ...

ヒナタが必死に我慢しても、
男の手は止まるどころか、
イカせようと強くなるばかりだ。

ぐは、はっ、はあつ
ああ、ダメっダメっ
が、我慢っ我慢んっ

もうヒナタちゃんったら
素直じゃないなあ、はあはあ、
イキたいんでしょ？照れちゃって、



ひきいてくくくくくく
イックククククククク


はいった

触らないでと言っていた
股間を思い切り圧迫され、
むなしく醜態をさらすヒナタ。

ひ、ひきい……
ひどい……んあつ
い、いっちゃったあ……

潮吹いてるじゃん！
現実で見れるとかヤバっ
ヒナタちゃんエロすぎ(笑)

エロッ！



男に素の変態性、性格の難は残ったままだが、ヒナタへの態度も柔和になった。
現実の女性にここまで夢中になっているということでは、任務は完遂したといえる。

ヒナタはさつき無理やりイカされた後この旨を説明し、意外にも男もあっさり納得した。彼なりに感謝しているようだ。

しかし、現実の女性といっても、ヒナタほど美人でスタイル抜群、性格もよし、という人間はそう見つけられるものではない。家に引きこもっているのは尚更だ。

男は今回の任務で、外へ出て色々見て廻ることにしたが、最後に一つだけ、ということではヒナタにお願いをした。

あ、あの…苦しくは
ないですか…？
息とか…大丈夫？

大丈夫だよ…
ふうー、ふうー…

お、おちんちんも
痛くないですか…？

ふー、ふー、うん…
気持ちいいよ…

のし、

ア！…

ア！…

聞くと、男は産まれた
ばかりの時に、母親を
亡くしているらしい。

女性不振や、家に
こもっているのも、
そこに原因がある
みたいだ。

ギョッ…



そんな男のお願いとは
つまり、ヒナタにひと時だけ
母親代わりになってほしい。
そういうプレイがしたい、
ということだった。

ふっ……ママ……ママ……

えっと……ま、ママのお手手、
きもちいいですか……？
あ、母親だから敬語は変かな……

き、きもちいいでちゆか？
えと、ママのおっぱいすき？

すき……ママの
おっぱいおっきい……

こんな男に赤ちゃんプレイを
するなんて、商売女でも
嫌がるだろう。だがヒナタは
母性が強いようで、かわいそうに
思い、健気にこなそうとしている。

ア……

ア……

し……

し……

し……

ねえ、ママ……僕おっぱい
吸いたくなっちゃった……
ちゅうちゅうしたいよお……

えっ……お、おっぱい
吸いたいの……？

なにゅ……

だめ……？僕おっぱい
ほしいよお……っ

で、でも母乳はでないよ……？
そ、それに恥ずかしい……

しゅ

しゅ

ア！……

ア！……



ヒナタは悩んだ。男はすっかり赤ちゃんになりきっている。こんなにも勃起する赤子はいないが、それでも無下にしたくなかった。

ママ、ママあ……

うう、わ、わかった……
ちよっとだけだよ？

やったあ……
ありがとママあ……

おっぱい、ゆっくり吸ってね……
やりすぎたら、メツだよ……？

キスするわけではない……
そう考え、この大きな赤子に
乳を吸わせてあげることにした。

ア！……
ア！……

ああ、ママやさしい……
好きだよママ……
おっぱいもママも好き……

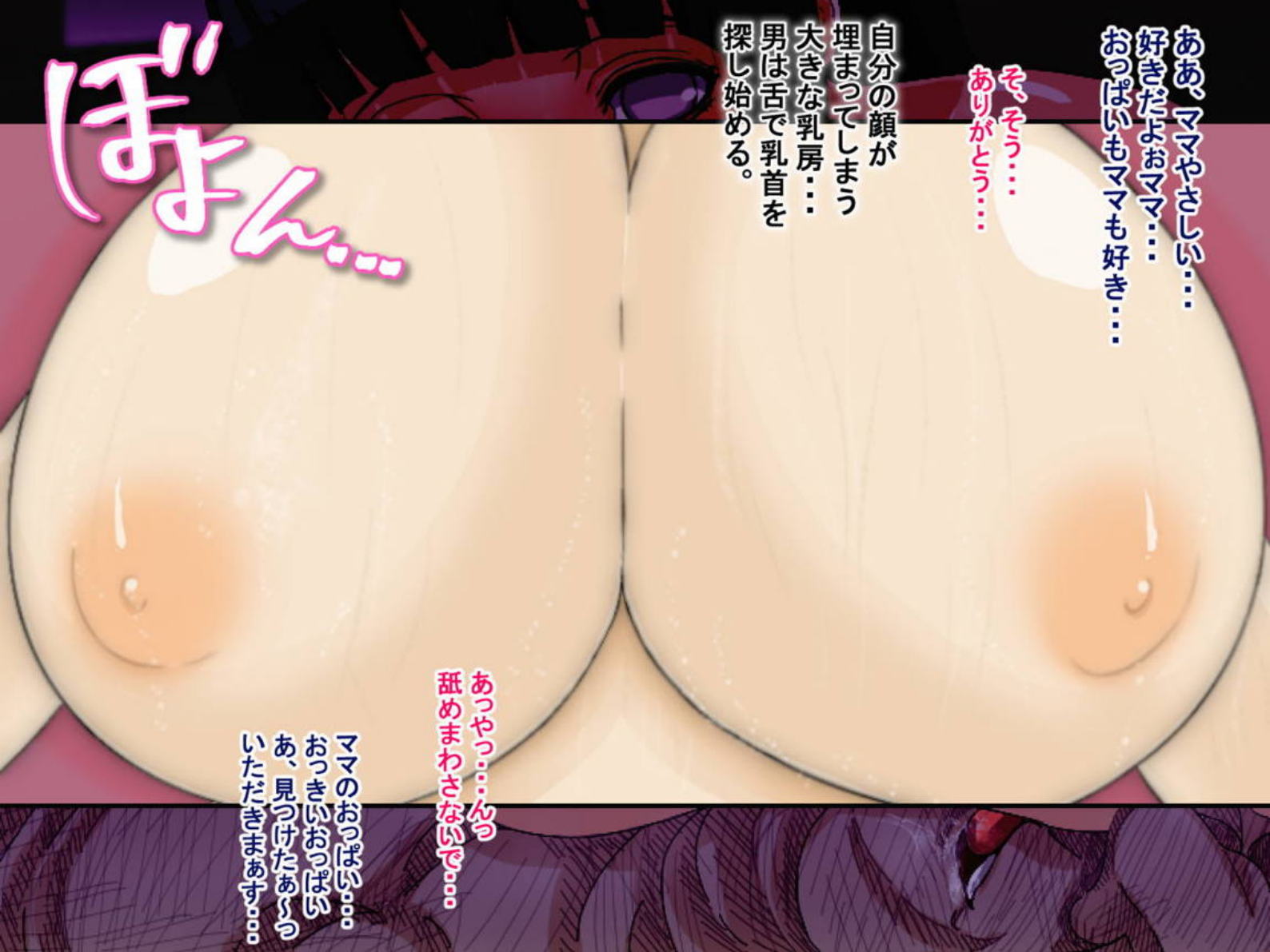
そ、そう……
ありがとう……

自分の顔が
埋まってしまっ
大きな乳房……
男は舌で乳首を
探し始める。

ぽん……

あ、やっ……んっ
舐めまわさな……

ママのおっぱい……
おっきいおっぱい……
あ、見つけたあ……
いただきませ……



乳首を見つけ、一息に吸う。
いいつけ通り、きつくは吸わず、
ゆっくりと吸引される……。
それはそれで強烈な性感だった。

んっ…ふう…っ
ひ、ああ、吸われてる…

ちゅーちゅー
おいちいよお…
ママのおっぱい
おいちい…

はっんう、あっ…
こ、こんな感じなんだ…
おっぱい吸われるのって…んっ

ママ好きい…
ちゅばちゅば…
おっきいおっぱい…
ママ…ちゅう…っ

びん

チュー

チュ

ちゅぽっ……はあはあ、
ん、ママ……ちんぽから
なんか出そうだよお……っ

んっ……っあ、う、うん……
射精だね……ええと……
だ、出しちゃおうね、すっきり
ぴゅっぴゅっしましょうね……

乳首から口を外し、気色悪い
甘えた声で射精しそうだと
訴える男に、健気にあやす
口調のまま答えるヒナタ。

ひゅっ、
ひゅっ、
しや、射精したら
きもちいいからね、
我慢しないで
出しましょうねっ

うん、僕射精する……
ママやさしい、好き……

チュッ

よだれまみれになったヒナタの乳首に向けて、男が再び舌を這わせる。

あんっ……ま、またおっぱい吸うの？

うん……おっぱい

ちゅーちゅーしながら

出したい、いいでしょ……？

バ

うん、いいよ……
甘えん坊さんだね、
じゃあ、おっぱいちゅーして
全部出しちゃおうね……

んはあ……んはあ……

絶頂間近の男が乳首を吸いながら舌でねぶりまわし始める。

ちよ、ちよっど…
んっ何してるのっ

ママの「ニコリコリ」だから舐め舐めしてるんだよお
ママも気持ちよさそう…

わ、私のことはいいから、だ、出して？

んれる、れる、ぴちちっ
まま、ママ出さう、
もっすぐ出さうだお

ああ、んっ射精して、
は、早く射精しようね、
んっ、ほ、ほら、ぴちっ

ピピッ

こすこす

こす

こす

れろろ

ちゅっ



ああ、で、射精るうっつ！

んはう……っ！

んっ

ビーン

おっばい……れる、ねろっ
ああまだ射精るうっつ

んう……っはっ
ま、また軽く
イっちゃった……

ねろっ

しゅわん
びん
かっ
うっ

男の射精時、敏感な乳首を吸われ舐めまわされた快感で自身も軽く絶頂を迎えてしまったヒナタ。まだ乳房が震えている…。だが、これで任務は終わった…。

んっふう…ふう…ふう…
あの…ま、満足できました？

ヒナタちゃん…
ありがとうね、その、
こんなキモいおっさんの
相手してくれて…

えっと、そんなに自分を卑下しないでください…
私の家も厳しくて、私はいつも役立たずで…

乳を丸出しにしながら男を励まそうとするヒナタ。任務を終え、赤ちゃんプレイの影響もあってか、母性が溢れていた



だげと目標の人がいて、
その人に近づこうと思って
頑張っていたら、周リの方から
私を見る目が変わっていった…

好きな人がいるんだね…

はい…

僕もヒナタちゃんみたいに
周りに認められるように
なれるかな…そうやって
いつかキミみたいな娘を
見つけられたらいいなあ…

うふふ…お互い
頑張りましょう。

本当にありがとう、
ヒナタちゃん。

男はヒナタのおかげで
意欲が増し、大名になるべく
色んな経験を重ね、その世界で
生きていくことになった。

こうして、人生二回目の
ヒナタの慰安任務は完了した。
この後、里に想い人が戻ってから
彼女はますます忍として力をつけ、
その人物と結ばれることとなる。

完。